定　　款

第一章　総則

（目的）

第一条　この社会福祉法人（以下「法人」という。）は、多様な福祉サービスがその利用者の意向を尊重して総合的に提供されるよう創意工夫することにより、利用者が、個人の尊厳を保持しつつ、心身ともに健やかに育成され、又はその有する能力に応じ自立した日常生活を地域社会において営むことができるよう支援することを目的として、次の社会福祉事業を行う。

（１）第一種社会福祉事業

（イ）母子生活支援施設秋田わかばハイムの設置経営

（２）第二種社会福祉事業

（イ）保育所あきた保育園の設置経営

（ロ）保育所かわぐち保育園の設置経営

（ハ）一時預かり事業

（ニ）子育て短期支援事業

２　前項のほか次の事業を行う。

（１）小畑母子福祉基金の運用に関する事業

（２）母子及び寡婦福祉に関する連絡指導、調査研究及び啓発普及

（３）母子及び寡婦の福祉並びに自立意欲高揚のための事業及び行事

（４）母子及び寡婦福祉を目的とする事業に関する普及及び宣伝

（名称）

第二条　この法人は、社会福祉法人秋田県母子寡婦福祉連合会という。

（経営の原則等）

第三条　この法人は、社会福祉事業の主たる担い手としてふさわしい事業を確実、効果的かつ適正に行うため、自主的にその経営基盤の強化を図るとともに、その提供する福祉サービスの質の向上並びに事業経営の透明性の確保を図り、もって地域福祉の推進に努めるものとする。

２　この法人は、地域社会に貢献する取り組みとして、（地域の母子・寡婦世帯、子育て世帯、経済的に困窮する者等）を支援するため、無料又は低額な料金で福祉サービスを積極的に提供するものとする。

（事務所の所在地）

第四条　この法人の事務所を秋田県秋田市山王四丁目１番２号に置く。

第二章　評議員

（評議員の定数）

第五条　この法人に評議員７名以上１５名以内を置く。

２　在任する評議員の人数は、理事の人数を超えていなくてはならない。

（評議員の選任及び解任）

第六条　この法人に評議員選任・解任委員会を置き、評議員の選任及び解任は、評議員選任・解任委員会において行う。

２　評議員選任・解任委員会の委員は、理事会において選任する。

３　評議員選任・解任委員会は、監事２名、外部委員２名の合計４名で構成し、任期は選任後四年とし、再任を妨げない。

４　選任候補者の推薦及び解任の提案は、理事会が行う。評議員選任・解任委員会の運営についての細則は、理事会において定める。

５　選任候補者の推薦及び解任の提案を行う場合には、当該者が評議員として適任及び不適任と判断した理由を委員に説明しなければならない。

６　評議員選任・解任委員会の決議は、委員の過半数が出席し、その過半数をもって行う。ただし、外部委員の１名以上が出席し、かつ、外部委員の１名以上が賛成することを要する。

（評議員の資格）

第七条　社会福祉法第四〇条第四項及び第五項を遵守するとともに、この法人の評議員のうちには、評議員のいずれか一人及びその親族その他特殊の関係がある者（租税特別措置法施行令第二五条の十七第六項第一号に規定するものをいう。以下同じ。）の合計数が、評議員総数の三分の一を越えて含まれることになってはならない。

（評議員の任期）

第八条　評議員の任期は、選任後四年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとし、再任を妨げない。

２　任期の満了前に退任した評議員の補欠として選任された評議員の任期は、退任した評議員の任期の満了する時までとすることができる。

３　評議員は、第五条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお評議員としての権利義務を有する。

（評議員の報酬等）

第九条　評議員に対しての報酬は無報酬とする。なお、費用弁償分については報酬に含まれない。

第三章　評議員会

（構成）

第一〇条　評議員会は、全ての評議員をもって構成する。

２　評議員会に議長を置く。

３　議長は、出席した評議員の中からその都度互選で決める。

（権限）

第一一条　評議員会は、次の事項について決議する。

（１）理事及び監事の選任又は解任

（２）理事及び監事の報酬等の額

（３）理事及び監事並びに評議員に対する報酬等の支給の基準

（４）臨機の措置（予算外の新たな義務の負担及び権利の放棄）

（５）計算書類（貸借対照表及び収支計算書）及び財産目録の承認

（６）定款の変更

（７）解散

（８）残余財産の処分

（９）基本財産の処分

（１０）社会福祉充実計画の承認

（１１）公益事業・収益事業に関する重要な事項

（１２）その他評議員会で決議するものとして法令又はこの定款で定められた事項

（開催）

第一二条　評議員会は、定時評議員会として毎会計年度終了後３ヶ月以内に１回開催するほか、必要がある場合に開催する。

（招集）

第一三条　評議員会は、法令に別段の定めがある場合を除き、理事会の決議に基づき会長が招集する。

２　評議員は、会長に対し、評議員会の目的である事項及び招集の理由を示して、評議員会の招集を請求することができる。

（決議）

第一四条　評議員会の決議は、決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の過半数が出席し、その過半数をもって行うが、可否同数のときは、議長の決するところによる。

２　前項の規定にかかわらず、次の決議は、決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の三分の二以上にあたる多数をもって行わなければならない。

（１）監事の解任

（２）定款の変更

（３）その他法令で定められた事項

３　理事又は監事を選任する議案を決議するに際しては、各候補者ごとに第１項の決議を行わなければならない。理事又は監事の候補者の合計数が第１５条に定める定数を上回る場合には、過半数の賛成を得た候補者の中から得票数の多い順に定数の枠に達するまでの者を選任することとする。
４　第１項及び第２項の規定にかかわらず、評議員（当該事項について議決に加わることができる者に限る。）の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、評議員会の決議があったものとみなす。

（議事録）
第一五条　評議員会の議事については、法令に定めるところにより、議事録を作成する。
２　会議に出席した評議員のうちから選出された議事録署名人二名がこれに署名し、又は記名押印する。

第四章　役員及び職員

（役員の定数）
第一六条　この法人には、次の役員を置く。
（１）理事　　６名以上１０名以内
（２）監事　　２名以上３名以内
２　理事のうち、１名を会長、２名以上を副会長、１名を常務理事とする。
３　前項の会長をもって社会福祉法人の理事長とし、常務理事をもって社会福祉法第４５条の１６第２項第２号の業務執行理事とする。
４　会長及び常務理事以外の理事のうち、さらに１名を同法規定の業務執行理事とすることができる。

（役員の選任）
第一七条　理事及び監事は、評議員会の決議によって選任する。
２　会長、副会長及び常務理事並びに業務執行理事は、理事会の決議によって理事の中から選定する。

（役員の資格）
第一八条　社会福祉法第四十四条第六項を遵守するとともに、この法人の理事のうちには、理事のいずれか一人及びその親族その他特殊の関係がある者の合計数が、理事総数の三分の一を越えて含まれることになってはならない。
２　社会福祉法第四十四条第七項を遵守するとともに、この法人の監事には、この法人の理事（その親族その他特殊の関係がある者を含む。）及び評議員（その親族その他特殊の関係がある者を含む。）並びに、この法人の職員が含まれてはならない。また、各監事は、相互に親族その他特殊の関係がある者であってはならない。

（理事の職務及び権限）

第一九条　理事は理事会を構成し、法令及びこの定款で定めるところにより、職務を執行する。

２　会長は、法令及びこの定款で定めるところにより、この法人を代表し、その業務を執行し、業務執行理事は、理事会において別に定めるところにより、この法人の業務を分担執行する。

３　副会長は、会長の職務を補佐する。

４　会長及び業務執行理事は、毎会計年度に４箇月を超える間隔で２回以上、自己の職務の執行の状況を理事会に報告しなければならない。

（監事の職務及び権限）

第二〇条　監事は理事の職務の執行を監査し、法令で定めるところにより、監査報告を作成する。

２　監事は、いつでも、理事及び職員に対して事業の報告を求め、この法人の業務及び財産の状況の調査をすることができる。

（役員の任期）

第二一条　理事又は監事の任期は、選任後二年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとし、再任を妨げない。

２　補欠として選任された理事又は監事の任期は、前任者の任期の満了する時までとすることができる。

３　理事又は監事は、第一六条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお理事又は監事としての権利義務を有する。

（役員の解任）

第二二条　理事又は監事が、次のいずれかに該当するときは、評議員会の決議によって解任することができる。

（１）職務上の義務に違反し、又は職務を怠ったとき。

（２）心身の故障のため、職務の執行に支障があり、又はこれに堪えないとき。

（役員の報酬等）

第二三条　理事及び監事に対して、評議員会において別に定める報酬等の支給基準に従って算定した額を、報酬等として支給することができる。なお、費用弁償分については報酬等に含まれない。

（職員）

第二四条　この法人に、職員を置く。

２　この法人の設置経営する施設の長他の重要な職員（以下「施設長等」という。）は、理事会において、選任及び解任する。

３　施設長等以外の職員は、会長が任免する。

（会員）

第二五条　この法人に会員を置く。

２　会員は、この法人の目的に賛同し、目的達成のため必要な援助を行うものとする。

３　会員に関する規程は、別に定める。

第五章　理事会

（構成）

第二六条　理事会は、全ての理事をもって構成する。

２　理事会に議長を置く。

３　理事会の議長は会長とする。

４　会長が出席できないときは、会長があらかじめ指名する副会長が順次に議長を務める。

（権限）

第二七条　理事会は、次の職務を行う。ただし、他の規程に定めるもの及び日常の業務として理事会が定めるものについては、会長が専決し、これを理事会に報告する。

（１）この法人の業務執行の決定

（２）理事の職務の執行の監督

（３）会長、副会長及び常務理事並びに業務執行理事の選定および解職

（招集）

第二八条　理事会は、会長が招集する。

２　会長が欠けたとき又は会長に事故があるときは、会長があらかじめ指名する副会長が、順次に理事会を召集する。

（決議）

第二九条　理事会の決議は、決議について特別の利害関係を有する理事を除く理事の三分の二以上が出席し、その過半数をもって行うが、可否同数のときは、議長の決するところによる。

２　前項の規定にかかわらず、理事（当該事項について議決に加わることができるものに限る。）の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたとき（監事が当該提案について異議を述べたときを除く。）は、理事会の決議があったものとみなす。

（議事録）

第三〇条　理事会の議事については、法令の定めるところにより、議事の経過の要領及びその結果を記載した議事録を作成する。

２　当該理事会に出席した会長及び監事は前項の議事録に署名又は記名押印し、会長が欠席となった場合は、出席した理事及び監事が署名又は記名押印する。

第六章　資産及び会計

（資産の区分）

第三一条　この法人の資産は、これを分けて基本財産、その他財産、公益事業用財産及び収益事業用財産の四種とする。

２　基本財産は、次に掲げる財産をもって構成する。

（１）秋田県秋田市南通築地５５番地６所在の鉄筋コンクリート造り、陸屋根５階建秋田わかばハイム及びあきた保育園の寮舎及び園舎１棟（2,342.62平方メートル）

（２）秋田県秋田市楢山登町４６０番地１所在の鉄骨造り、陸屋根２階建かわぐち保育園の園舎１棟（498.12平方メートル）及び木造亜鉛メッキ鋼板ぶき平屋建附属物置１棟（9.93平方メートル）

３　その他財産は、基本財産、公益事業用財産及び収益事業用財産以外の財産とする。

４　公益事業用財産及び収益事業用財産は、第３９条に掲げる公益を目的とする事業及び第４０条に掲げる収益を目的とする事業の用に供する財産とする。

５　基本財産に指定されて寄附された金品は、速やかに第２項に掲げるため、必要な手続きをとらなければならない。

（基本財産の処分）

第三二条　基本財産を処分し、又は担保に供しようとするときは、理事総数の三分の二以上の同意及び評議員会の承認を得て、秋田県知事の承認を得なければならない。ただし、次の各号に掲げる場合には、秋田県知事の承認は必要としない。

一　独立行政法人福祉医療機構に対して基本財産を担保に供する場合

二　独立行政法人福祉医療機構と協調融資（独立行政法人福祉医療機構の福祉貸付が行う施設整備のための資金に対する融資と併せて行う同一の財産を担保とする当該施設整備のための資金に対する融資をいう。以下同じ。）に関する契約を結んだ民間金融機関に対して基本財産を担保に供する場合（協調融資に係る担保に限る。）

（資産の管理）

第三三条　この法人の資産は、理事会の定める方法により、会長が管理する。

２　資産のうち現金は、確実な金融機関に預け入れ、確実な信託会社に信託し、又は確実な有価証券に換えて、保管する。

（事業計画及び収支予算）

第三四条　この法人の事業計画書及び収支予算書については、毎会計年度開始の前日までに、会長が作成し、理事総数の三分の二以上の同意を得なければならない。これを変更する場合も、同様とする。

２　前項の書類については、主たる事務所に、当該会計年度が修了するまでの間備え置き、一般の閲覧に供するものとする。

（事業報告および決算）

第三五条　この法人の事業報告及び決算については、毎会計年度終了後、会長が次の書類を作成し、監事の監査を受けた上で、理事会の承認を受けなければならない。

（１）事業報告

（２）事業報告の附属明細書

（３）貸借対照表

（４）収支計算書（資金収支計算書及び事業活動計算書）

（５）貸借対照表及び収支計算書（資金収支計算書及び事業活動計算書）の附属明細書

（６）財産目録

２　前項の承認を受けた書類のうち、第１号、第３号、第４号及び第６号の書類については定時評議員会に提出し、第１号の書類についてはその内容を報告し、その他の書類については、承認を受けなければならない。

３　第１項の書類のほか、次の書類を主たる事務所に５年間備え置き、一般の閲覧に供するとともに、定款を主たる事務所に備え置き、一般の閲覧に供するものとする。

（１）監査報告

（２）理事及び監事並びに評議員の名簿

（３）理事及び監事並びに評議員の報酬等の支給の基準を記載した書類

（４）事業の概要等を記載した書類

（会計年度）

第三六条　この法人の会計年度は、毎年四月一日に始まり、翌年三月三一日をもって終わる。

（会計処理の基準）

第三七条　この法人の会計に関しては、法令等及びこの定款に定めのあるもののほか、理事会において定める経理規程により処理する。

（臨機の措置）

第三八条　予算をもって定めるもののほか、新たに義務の負担をし、又は権利の放棄をしようとするときは、理事総数の三分二以上の同意及び評議員会の承認を得なければならない。

第七章　公益を目的とする事業

（種別）

第三九条　この法人は、社会福祉法（昭和２６年法律第４５号）第２６条の規定により、利用者が、個人の尊厳を保持しつつ、自立した生活を地域社会において営むことができるよう支援することなどを目的として、次の事業を行う。

（１）ひとり親家庭就業・自立支援事業

（２）母子寡婦雇用促進対策事業

２　前項の事業の運営に関する事項については、理事総数の三分の二以上の同意及び評議員会の承認を得なければならない。

第八章　収益を目的とする事業

（種別）

第四〇条　この法人は、社会福祉法第２６条の規定により、次の事業を行う。

（１）物品の販売に協力する事業

２　前項の事業の運営に関する事項については、理事総数の三分の二以上の同意及び評議員会の承認を得なければならない。

（収益の処分）

第四一条　前条の規定によって行う事業から生じた収益は、この法人の行う社会福祉事業又は公益事業（社会福祉法施行令（昭和三三年政令第一八五号）第一三条及び平成一四年厚生労働省告示第二八三号に掲げるものに限る。）に充てるものとする。

第九章　解散

（解散）

第四二条　この法人は、社会福祉法第四六条第一項第一号及び第三号から第六号までの解散事由により解散する。

（残余財産の帰属）

第四三条　解散（合併又は破産による解散を除く。）した場合における残余財産は、評議~~委~~員会の決議を得て、社会福祉法人のうちから選出されたものに帰属する。

第十章　定款の変更

（定款の変更）

第四四条　この定款を変更しようとするときは、評議委員会の決議を得て、秋田県知事の認可（社会福祉法第四五条の三六第二項に規定する厚生労働省令で定める事項に係るものを除く。）を受けなければならない。

２　前項の厚生労働省令で定める事項に係る定款の変更をしたときは、遅滞なくその旨を秋田県知事に届け出なければならない。

第十一章　公告の方法その他

（公告の方法）

第四五条　この法人の公告は、社会福祉法人秋田県母子寡婦福祉連合会の掲示場に掲載するとともに電子公告に掲載して行う。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告に掲載することができない場合は、官報に掲載する方法により行う。

（施行細則）

第四六条　この定款の施行についての細則は、理事会において定める。

附則

この法人の設立当初の役員は、次のとおりとする。ただし、この法人の設立後遅滞なく、この定款に基づき役員の選任を行うものとする。

会　長（理　事）		古川スズ
	副会長（　同　）	土井クニヱ
	同　　（　同　）	大泉　純
	同　　（　同　）	渡辺ヤヱ
	理　事	三村チヨ
	同	矢野ミン
	同	明石トミ
	同	東海林フサ
	同	熊谷カツ
	同	須貝フミ
	同	武石チヱ
	同	大野富子
	同	戸田節
	監　事	工藤イマ
	同	工藤ツヤノ
	同	山形マサノ

（制定期日）

昭和３７年１２月　１日

（施行期日）

１　この定款は、昭和３９年１２月２５日から施行する。

２　この定款は、昭和４９年　３月　７日から施行する。

社会福祉法人　秋田県母子寡婦福祉連合会

３　この定款は、昭和５７年１０月１５日から施行する。
４　この定款は、平成　５年　１月２０日から施行する。
５　この定款は、平成　６年　４月２５日から施行する。
６　この定款は、平成１０年　５月　８日から施行する。
７　この定款は、平成１２年　４月　１日から施行する。
８　この定款は、平成１４年　５月３１日から施行する。
９　この定款は、平成１６年　７月１６日から施行する。
10　この定款は、平成１６年　８月１９日から施行する。
11　この定款は、平成１７年　３月２３日から施行する。
12　この定款は、平成１８年　２月２７日から施行する。
13　この定款は、平成２０年　４月　１日から施行する。
14　この定款は、平成２１年　４月１０日から施行する。
15　この定款は、平成２１年　６月２９日から施行する。
16　この定款は、平成２２年　６月１８日から施行する。
17　この定款は、平成２４年　５月１４日から施行する。
18　この定款は、平成２５年　６月１４日から施行する。
19　この定款は、平成２８年　２月　８日から施行する。
20　この定款は、平成２８年１２月１５日から施行する。
21　この定款は、平成２９年　１月１０日から施行する。
22　この定款は、令和　２年　８月　７日から施行する。
23　この定款は、令和　５年　３月３１日から施行する。
24　この定款は、令和　７年　８月２０日から施行する。